

個の問題意識が生きる単元構成

— 第6学年「平清盛と厳島神社」の実践 —

大脊戸 若 光

1. 本単元における研究課題

「個が生きる社会科授業の条件」の(2)において「児童の反応の多様性を組織する」ことを述べた。本単元の実践にあたっては、

平清盛についての児童個々の問題意識を組織しながら指導計画を構成する。

ことを研究課題として学習づくりを試みた。そのことによって、個々の学習の主体性や個の学習の成立を保障できる問題解決的学習を意図している。

2. 教材と指導目標

日本三景の一つであり、国宝や重要文化財の多くを蔵する厳島神社の盛運の基礎は、平安時代の末期における平清盛を中心とする平家一門の当神社への厚い信仰によって築かれた。武士として初めて政治の実権を握った平清盛との結びつきを通して、日本及び地域の代表的な文化遺産としての厳島神社を見つめ直させることは、広島の子供にとって意義深いと考える。

児童は、遠足・ドライブ・初詣等で全員が厳島神社を訪れた経験がある。また、数人は厳島神社と平清盛との結びつきを知ってはいる。しかし、平氏が神社によせた厚い信仰や業績、また平安時代末期の代表的な文化遺産としての意識は薄い。指導にあたっては、平清盛の人物像から厳島神社との結びつきに目を向けさせながら、歴史上の人物と文化遺産との関係を学習させたい。

指導目標

- 1 平清盛と厳島神社の結びつきを調べることを通して、清盛が武士として初めて政治の実権を握ったことを理解させる。
- 2 年表や写真等の基礎的資料を効果的に活用することができるようにするとともに、歴史上の人物や文化遺産の意味を広い視野から考える能力を養う。

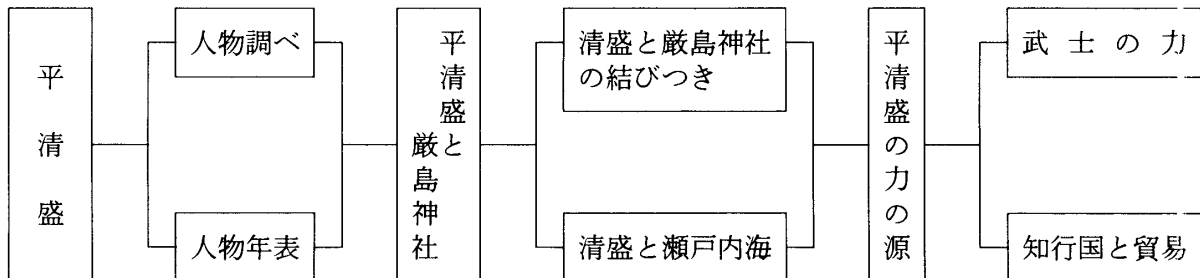
3. 指導計画と児童の問題意識

指導内容と計画……………4時間（本時 第二次 第1時）

第一次(1)

第二次(2)

第三次(1)



この指導計画と指導内容は、表1の「平清盛に係わる児童の問題意識」を予想して作成したものである。この期の児童は、教科書や参考書等の文献をもとに、人物についての歴史的事実を読み取る力や意欲を高めている。第1次の「平清盛についての調べ学習」の結果、一人一人の問題意識が、表1に示すように確認された。自分の問題意識が、どの時間の学習内容に位置付けられているかが把握できるように、表1を学習者全員に配布した。

日本の歴史・学習問題～平 清盛～ (表1)

第一次の学習から

1	平家納経とは何か。佐藤 白石	第二次の(1)
2	平家納経を納めたわけ。土肥 川本	清盛と厳島神社
3	他の神社にしてもよいのに、どうして厳島神社を造営したのか。白石	
4	なぜ厳島神社をたてようとしたのか。熊谷	
5	なぜ厳島神社を経営したのか。土肥 川本 平松	
6	なぜ厳島神社を選んだのか。土肥	
7	なぜ宮島(広島)に建てたのか。江口 的場 灰田 下田 丸山 高橋 大塚	
8	厳島神社や神戸港に力を入れてどんな得をしたのか。西谷	
9	なぜ、安芸の国に神社をつくったのか。松本 浜岡	
10	神戸に港をつくったわけ。熊谷	
11	なぜ、あんな奥のほう(神戸)に港をつくったのか。三木	第二次の(2)
12	なぜ、宗と貿易したのか。川角	清盛と瀬戸内海
13	財力のもとは、荘園か、日宗貿易か。梶西	
14	30か国も治めることが出来たわけ。立花	
15	30か国も治めることが出来た権力は、どうやってもったのか。宮原な	
16	なぜ、どんどん昇進したのか。梶西 谷口	
17	なぜ、位を上げるのにこんなに時間をかけるのか。曾根	
18	なぜ、武士なのに高い位につけたのか。久保西 新宅	
19	平氏のどんな基礎をきずいたのか。大田	
20	なぜ知っている人(忠正)などを簡単に殺すのか。江田	
22	おじの忠正を殺したわけ。熊谷 高橋	
23	奈良を焼き打ちしたわけ。古川 伊藤	
24	どうして反感が高まったのか。久保西	第三次の(1)
25	義朝をどうやって破ったのか。櫛木	清盛の力の源
26	頼朝をひどくきらっていたわけ。江田	
27	源氏と仲が悪いわけ。熊谷	
28	なぜ、何回も源氏と戦わなければならないのか。松本 野崎	
29	保元の乱の時、天皇方につくなどは、どう決めるのか。石岡 辻	
30	壇の浦の戦いのようす。片桐	
31	なぜ、えらい人は出家するのか。上田	
32	なぜ、別荘をたてたのか。松本	
33	重い病気の病名。石岡	
34	身内に厳しく、他に優しくったとは。三木	
35	29才までの生活。久保西 宮原	
36	子供は何人。谷口	
37	彼のくらし。この時代のくらし。丸山 立花	時代のくらし
38	安芸の国の国司になれたわけ。土肥	
39	京都の出身なのに、安芸の国の国司になったわけ。江木	

4. 本時の授業意図

本時は、児童の問題意識の1, 2, 3, 4; 5, 6, 7, 8, 9を追求することを意図した1時間の学習である。

学習は、平清盛と厳島神社との結びつきを具体的に知ることから始める。清盛の造営事業や片道七日の十回以上の参詣、多くの国宝級の供物の奉納等は、児童自身の学習では調べにくいので、写真等の提示により理解を図る。本時の焦点は、清盛の略年表と彼の参詣の年度をどれだけ関係づけて「清盛が、どんな時に参詣を行なっているか。」を考えることができるかにある。授業のこの場面における児童個々の資料の読み取り方や人物像のとらえ方を大切に評価していきたい。

本時の目標

平清盛は、一族の守り神として厳島神社を信仰し、造営・参詣・奉納等を行なったことを理解させる。

準備

写真・年表・地図等

評価の観点

意欲・態度	平清盛と厳島神社の結びつきに関心を持ち、意欲的に学習できる。
思考・判断	平清盛の厳島神社に対する信仰について、自分なりの考えを持つことができる。
技能・表現	年表と清盛の参詣の意味を関係づけて読み取ることができる。
知識・理解	平清盛が厳島神社を大切にしたわけが理解できる。

5. 本時の学習計画と実際（本時は、第98回東雲教育研究会第1日の公開授業である。）

学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 平清盛と厳島神社の結びつきについて確かめる。</p> <pre> graph TD A[平清盛と厳島神社の結びつきについて確かめる。] --- B[造 営] A --- C[参 詣] A --- D[奉 納] B --- E[大鳥居社殿等] C --- F[10回以上管弦祭] D --- G[現在の国宝多数] E --- H[厳島神社への厚い信仰] F --- H G --- H </pre>	<p>1 平清盛と厳島神社との結びつきを具体的に調べることは、教科書・資料集・参考書等では無理があるので、写真や文献（広島県史）の記述により説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳島神社を清盛が始めたとして理解していることが予想されるので、史実を補説する。 ・参詣については、片道海路7日間であったことや千僧供や神楽などその規模の大きさを知らせ、現在の管弦祭は、そのなごりであることに関心を持たせる。 ・平安時代後期の国風文化の遺産である奉納物を写真により知らせる。

(1) 今日は、多くの人が問題にしている平清盛と厳島神社の関係について学習します。人物の学習で大切なことは、その人が何をしたかという事実です。清盛は、厳島神社をどうしましたか。そして何をしましたか。彼の人物年表を見て確かめなさい。

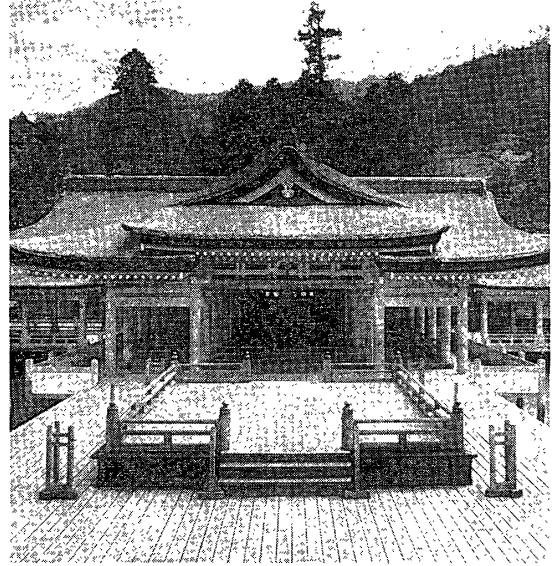
C 1 厳島神社を造営しました。清盛の命令で、造ったということです。

T 造営されたものには、何があるか知っていますか。

C 2 海の中に立っている鳥居があります。

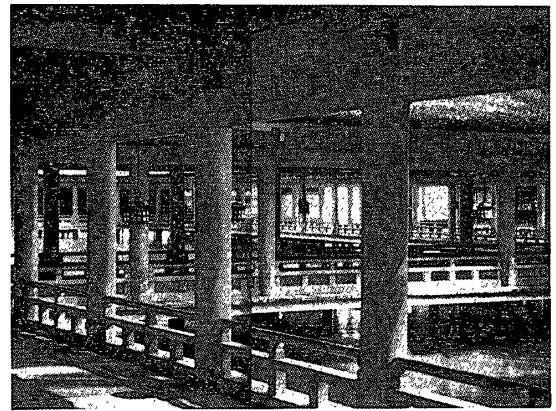
C 3 神社の建物もあります。

T 神社の建物のことを社殿といいます。厳島神社の社殿は、回廊（廊下）で結ばれ、満潮の時は潮が社殿の下までくるので、海に浮かんだようになります。こんな神社をつくった清盛は、なかなか考えがユニークですね。では、造営した厳島神社に対して、何をしましたか。



C 4 1164年に平家納経を奉納しました。
T 奉納とは、どうすることかわかりますか。
C 5 お供えするようなことだと思います。
T そうですね。平家納経がどんなものか疑問を持っていた人がいましたね。

C 6 字から考えて、それはお経だと思います。
T お経を書き写すことは、古い時代から信仰のあかしとされてきました。平家の人々は、他にもお経を写しては、厳島神社に奉納しました。それに書かれている文字や絵は、平安時代の優れた文化の代表として国宝なのです。ここにまだ、清盛が奉納した物の写真があります。何か見当がつかますか。



C 7 武士だから、武器のような物もあると思います。
T よくわかりましたね。刀や鎧兜などもあります。

年表には、ありませんが、清盛が厳島神社にしたことがもう一つあります。10回くらいしたことなのです。

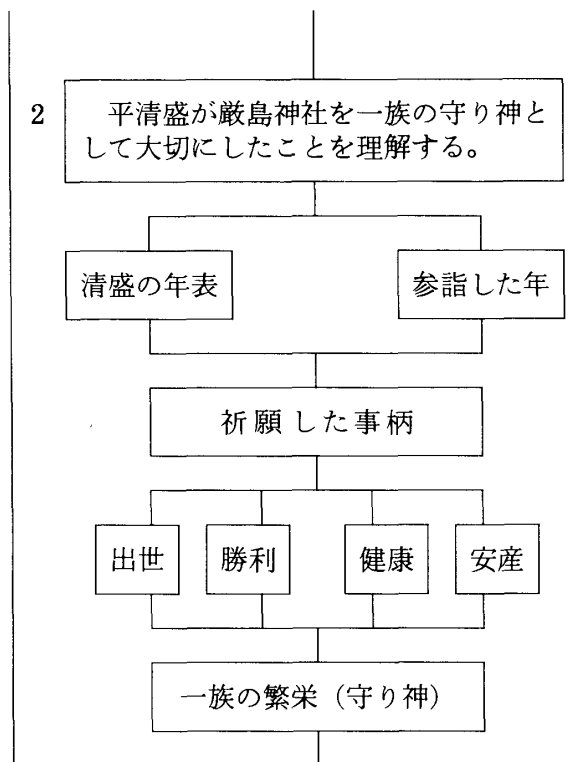
C 8 おまいりをしたのだと思います。
C 9 たくさんのお金を使って造営したり、お供え物をしたりしたのだから、お願事もたくさんしたと思います。

(2) 清盛は、造営、奉納、参拝の三つのことをしています。この三つのうち、どれを詳しく調べれば、清盛と厳島神社との関係がよくわかるでしょうか。

C 10 参拝だと思います。それは、清盛の気持ちや考えがわかるからです。

T では、人は、人生のどんな時に、神社などにお参りするのですか。自分の経験を発表してごらんください。(中略)

平清盛の年表	
一一一八年	0才 平忠盛の子として産まれる。
一一四六年	29才 安芸の国の国司となる。
一一五一年	33才 厳島神社(宮島)の造営を始める。
一一五三年	35才 平氏の棟梁(頭)となる。
一一五六年	39才 保元の乱で天皇方につき勝利する。
一一五九年	42才 平治の乱で源氏を敗る。
一一六〇年	43才 正三位に昇進する。
一一六一年	44才 権中納言に昇進する。
	大輪田の泊(神戸港)の工事を始める。
一一六二年	45才 従二位に昇進する。
一一六四年	47才 平家納経を奉納する。
一一六七年	50才 従一位太政大臣(最高の位)に昇進する。
一一六八年	51才 重い病気になる。出家して福原に住む。
一一七二年	55才 娘の徳子が高倉天皇の中宮になる。
一一七七年	60才 平氏を倒すたくらみが発覚して、処罰する。
一一七八年	61才 徳子が天皇の子を出産する。
一一七九年	62才 長男の重盛が病気で死ぬ。
一一八〇年	63才 源氏との戦いが、また始まる。
一一八一年	64才 病気で死ぬ。



- 2 清盛の年表と厳島神社に参詣した年を資料として提示して、参詣の意図を推測させて、本時のねらいに迫らせる。
- ・清盛の年表は、前時にプリントしたものを配布しておき、それに参詣した年を記入させて関係的な思考を促すようにする。
 - ・「清盛は、参詣したその時その時に、何を願ったのだろうか。」と発問し、祈願した事柄について、各自に推測させるようにする。
- ◎清盛の参詣には、その度ごとに祈願した事柄が推測できる。児童には、「何年の参詣は、何事を願ったと思う。」の形式でノートに記述して発表し自己評価させていく。
- ◎本時の学習のまとめを書かせる。

(3) 人生の大切な時に、人は神様に、お願いするのですね。清盛の年表を見て、彼が、いつ、何を願ったかを考えなさい。参拝したと思う年とその願いごとの内容をノートに書きなさい。

A子のノートより

1168年……病気にかかっているから、早く治るように、参拝したと思う。
 1178年……娘の徳子の出産を祈りに、参拝したと思う。早く、天皇のおじいさんになるため。
 1180年……源氏との戦いが始まり、勝利を願って、参拝したと思う。

B君のノートより

1161年ごろ、昇進できるように願って参拝しただろう。
 1167年ごろ、病気が治るように参拝しただろう。
 1176年ごろ、健康でたくましい孫が生れることを願って参拝しただろう。
 まとめ いろいろな学習問題が、清盛の年表を、じっくり見ていくと、うすうすわかってくるのがおもしろいし、すごい。

清盛の厳島神社参拝の記録

- 1160年 正三位に昇進の御礼
- 1167年 太政大臣に昇進の御礼
- 1167年 出家の直前
- 1172年 徳子の入内の直前
- 1174年 後白河法皇を案内
- 1177年 徳子の安産の祈願
- 1177年 鹿ヶ谷事件直後
- 1178年 徳子の出産の御礼
- 1180年 安徳天皇の即位直前
- 1180年 源氏拳兵直後
- 1180年 頼朝拳兵直後
- 1180年 高倉上皇とともに
- 1180年 病死の前年

(広島県史より)

◎ 参拝した年を予測することよりも、年表の事柄と願った内容をむすびつけた予測が出来たかどうかを大切にして自己評価させた。

(4) 実際に、彼が、いつ何を願ったか、広島県史に書かれている事実と自分の考えとを照らし合わせてみましょう。人物の歴史を考える力がわかります。

(後略)

6. 実践の結果

本単元における研究課題である、

平清盛についての児童個々の問題意識を組織しながら指導計画を構成する。

ことが、個の学習の成立や自己評価的な学習態度づくりに効果的であったかについて述べる。

(1) 学習問題表について

人物調べ → 自分の学習問題 → 全員の学習問題の確認 → 学習計画 の順序で、学習を組織化したことは、自己の問題意識を客観的に把握させた。

- ア. 自分と同質の問題意識を持つ仲間がいることがわかる。
- イ. 他にも興味深い問題があることがわかる。
- ウ. どの時間に、自分の課題について教材が用意されるかがわかる。

(2) 指導計画の作成について

- ア. 児童一人一人の問題意識を把握でき、達成感を持たせる学習活動を組織できた。
- イ. 問題を持つ、調べ考える、学習をふりかえるサイクルを個々について確認できた。
- ウ. 教える学習から、学習方法を会得させる学習に転換できた。

(3) 個人の学習記録カードについて

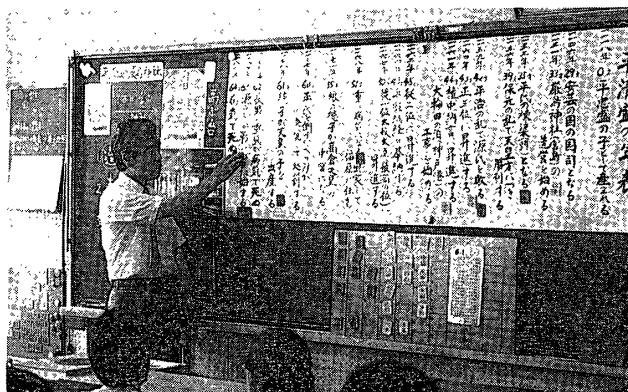
- ア. 単元の初めに自分の学習問題を意識化させることに効果的であった。
- イ. 一人学習、全員学習のそれぞれの意義をわからせることができた。
- ウ. 学習の成果の欄の記述によって、各児童の達成感を把握できた。

(学習記録カード)

(授業写真)

学習記録カード 6年 1組 宮原奈緒

日本の歴史	テーマ	平 清 盛
1	人物調べ	藤原道長と似たところが多いと思った。
2	人物年表	40才～死ぬまでが1番出世していた。
3	学習問題	30ヵ国を治められるという権力は、どうやって身につけたのだろうか。
一人学習		全員学習
たまには、一人学習はいいなと思った。しっかり自分自身で深めたいです。		自分とちがういろいろな意見がでて勉強になった。
4	学習の成果	自分の疑問は、あまり解決できなかったけど、全員学習は、みんなの意見が聞けるのでいいなあとと思った。



7. 参考文献

- ・「歴史学習の理論と実践」星村平和編著 東京書籍 1991
- ・「広島県史・中世編」
- ・「朝日百科・日本の歴史」朝日新聞社 1989